

自己評価および外部評価結果

平成25年 ぶなの木 1階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や廊下、エレベーター内に掲示し、毎日目に出来るようにしている。また申し送りや職員会議で再確認し、実践につなげている。	開設時、経営者と常勤職員で作成された理念は、地域の方に親しんでもらい、家族の助けになりたいという想いでつくられている。特に笑顔を大切にサービスを実践し、理念を意識できるよう玄関や共有スペースなどに掲示し常に確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実習生やボランティアの受け入れも積極的に行い、日向ぼっこをしていると、散歩の人が立ち寄ってくれたり、時々近所の方が野菜をもってきてくれる。	地域の自治会に加入している。中学生の体験学習や養護学校の職場体験など積極的に受け入れている。古くからの住宅と新興住宅地が混在しているが、近隣の人が野菜を届けてくれたり、夏祭りの子供神輿が事業所に立ち寄るなど、地域との交流も広がりつつある。	地域密着型サービスは、利用者が地域とつながりながら暮らしていくことを積極的に支えていくサービスである。今後は自治会に加入するだけでなく、回覧版を活用しながら事業所の行事や取り組みを地域住民に知ってもらうことで、身近な交流が図られることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や見学に来られた方の疑問に答えたり、外出に付き添い、介助している場面を地域の方はみていて話しかけてきたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際を報告し、意見をいただいている。その意見と市や町内の情報を聞かせていただく事がサービスに活かされている。	運営推進会議には、家族代表、地域住民(区長、協議委員、民生委員)地域包括支援センター職員、行政担当者が参加メンバーとなっており、2か月に1回開催され、活発な意見交換がなされている。納涼祭の食事提供の課題について、保健所からの意見をもとに話し合いが行われ、そこでの意見は運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケア会議などに参加をし、ケアについての情報交換や研修を行い、こまめに、連絡・相談などの出来る協力関係を築けるよう努めている。	市の担当者には、運営推進会議に出席してもらい、事業所の日頃の取り組みを理解してもらっている。市が主催で行う「魚沼市合同ケア会議」や地区ごとに別れて行う「地域のケア会議」に参加し、行政の他、さまざまな事業所との連携・情報共有が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が禁止である事を職員全員で理解し、玄関など施錠をせず安全を保てるようにセンサーを利用したりしながら取り組み、再度社内研修や他での研修にも積極的に参加し、理解を深めケアに取り組めるよう努めている。	年間計画に沿って、マニュアルを基に身体拘束に関する研修を実施し、職員の共有認識を図っている。職員会議やミーティングなどで日常ケアについて振り返る機会を持ち、気づかないうちに言葉をさえぎったり、気持ちを抑えつけていないか、確認し合いより適切なケアが行えるよう努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修参加への声かけや参加しやすい勤務体制にし、小さい事でも疑問がある場合などは、すぐに話し合いの出来る場を設け虐待のないケアに努めている。	身体拘束同様マニュアルを使用した取り組みが実施されている。職員は自身の言葉や行動が利用者の抑制につながっていないか、十分注意を払っている。また、管理者は、職員の疲労やストレスが蓄積されないよう普段からよく話を聞くようにし、何でも話せる関係ができています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度、自立支援事業を利用された方がおり、学ぶ機会を持つことができた。それを踏まえ再度職員全体で制度に関する理解を深め、いつでも対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、料金改定などがあった場合は、内容が理解されやすいように丁寧に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時など、家族から話を聞かせてもらい、意見、要望は職員間で共有し速やかに改善するよう努めている。	全職員は、利用者・家族が意見を出しやすいような雰囲気づくりを心がけ、利用者の様子を伝えながら、意見や要望など気軽に申し出てもらえるよう声をかけている。出された意見は、ミーティングや会議などで検討され運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全職員で行う会議の後、常勤者と代表者、管理者で会議を行い、職員の意見等を聞き反映させている。	毎月の職員会議に続けて系列事業所と合同で運営会議が開催され、職員から出された意見や提案について検討し反映させている。個別にも話を聞く機会を設け、管理者・会長などを交えた懇親会が年数回あり、普段思っていることを気軽に話せる機会となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持って働けるよう、勤務希望にも柔軟性を持って調整出来るよう努め職員の資格取得に向けた支援もを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修会や学習会には多くの職員が参加出来るよう機会をもうけ、内部での研修も毎月実施している。資料などもいつでも見る事の出来るようにしてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会や勉強会に参加し、日頃のケアの悩みなどを話し合い、他のホームの工夫などを取り入れていけるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からのお話だけでなく、本人の気持ちを受け止めたり、本人の声に耳を傾け、信頼し安心できるサービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事、不安な事、求めている事などをじっくり聞きご家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が今一番何を必要としているかを見極め、グループホームだけに留めておかず、安心・納得しながら利用できるよう地域包括支援センターや他の事業所等と連携しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事が少なくなってきたが、洗濯物を干したり、たたんだり、料理の盛りつけなどして下さったり、職員が気づかない事を教えてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援しているという一方的な関係ではなく、ご家族の面会時には、普段の様子をお知らせしながら、一緒に本人を支えていくための協力関係を築いていくよう努めている。	入居時の部屋づくりは、利用者と家族で行ってもらい衣替えもお願いしており、衣類の重ね着をする利用者については家族と一緒に考え支援している。利用者の活動している写真を掲載した「ぶなの木通信」に日頃の様子を記載して家族に送付するなど、本人を共に支える関係づくりに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居された事で、それまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないように心がけ、その人の生活習慣を尊重していくよう努めている。	家族に協力してもらい、昔から行っていた馴染の美容室や親戚のお参りに出かけている方もおられる。また、習慣にしているお歳暮の配達を店に頼んだり、孫へ手紙の返事を出すなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、情報を共有している。関係がうまくいくよう、食席を工夫したり、会話に入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった場合は、ダメージを最小限に食い止めるために出来るだけ細かく、本人の状況や情報などを詳しく伝えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中の、言葉や表情などから本人の思いをくみ取ったり、本人に聞きながら希望や意向を出来る限り実現できるよう努め、困難な場合は、家族などに聞きながらより一層関心をはらい話し合うようにしている。	普段の会話やつぶやきなどから思いや希望の把握に努めている。言葉で表せない方は、仕草や表情から思いを汲み取るようにし、気づきはケース記録や申し送りで話し合い共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービス担当者や本人や、家族から話しを聞かせてもらい、入居されてからも毎日の生活の中から把握するよう努めている。	入居前の事前訪問や担当ケアマネ、利用していた他事業者、家族、親戚など、本人をよく知る人から情報を得ている。生活歴や生活習慣など本人の把握に努め、これまでの暮らし方が継続できるよう支援している。それまで行っていた畑仕事、縫物、晩酌を続けている利用者もおられる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その人の出来る力、分かる力を見つけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や意見などを聞き、日常の関わりの中からの気づきやアイデアなどを取り入れ、本人の為の介護計画を作成し、職員全員で行うモニタリングでは、多くの意見を出し合い、検討している。	利用者・家族の意向を踏まえながら、介護支援専門員が中心となり作成している。その人に合わせたアセスメントを選び、情報を積み重ね、毎月の職員会議では実践状況の確認や支援内容について検討を行い、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきなどを個々のケース記録に記入し、個別の連絡などは連絡ノートに記入し、職員同士情報の共有をし日勤・夜勤前の申し送りは必ず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や、要望に応じ、通院・買い物など必要な支援などに柔軟に対応し、本人やご家族の負担の軽減と満足を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのAコープやコンビニ、理容院、美容院などを利用して頂き本人が暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医と、協力医のどちらでも医療を受けられるようにしており、ご家族の同行が無理な場合は職員が同行するようにしている。	本人・家族の要望に沿いながら、かかりつけ医や症状に応じた専門医への受診を支援している。協力医の定期的な往診が行われている他、電話などで主治医や訪問看護師から支持をもらえる体制がつくられている。職員が受診に付き添った時は家族に報告し、家族が同行する場合は本人の様子や相談事を文書で伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、毎週1回の訪問と24時間対応してもらえる体制が確保されており気軽に相談できる関係も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人支援の為の情報を医療機関に提供し、家族との情報交換を頻繁にしながら速やかな退院の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化がみられた時に、本人、家族と相談し、意向を聞きながら対応している。医師や訪問看護師と連携をとり、情報を共有している。	今年度2人の看取りを行っている。本人・家族の希望や思いを第一に考え、かかりつけ医や訪問看護ステーションと連携を図りながら、その人の尊厳をもった最後のステージを支えることができています。関わった職員は戸惑いながらも達成感を感じることができ、現在のケアに活かされている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDも導入し、急変時などに備え、年に1回消防署から来てもらい応急手当や初期対応の訓練を行い応急手当の方法をいつも目に見える所へ掲示している。	年1回消防署職員を招き、救急法講習を受講し、AEDの使用方法、心肺蘇生、窒息時の対処方法について対応できるよう学んでいる。訪問看護師が24時間対応できる体制であり、緊急時や事故発生時のマニュアル及びフローチャートも整備され、いつでも目につく所に掲示されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な消防訓練、年1回の消防署の協力を得ての訓練を行い、近所に職員も住んでおり協力を得られる体制をとっている。	事業所の防災計画に基づき、年1回の消防署立ち合いの自衛消防訓練と2か月に1回の自主消防訓練が行われ、火災や地震など、いろいろな場面を想定した訓練が実施されている。また、市の防災無線も事業所内に設置され、災害時に備えている。非常用食料・備品も整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が居室に鍵をかけたいときはかけていただいている。トイレへの誘導も目立たないよう心がけている。	居室には鍵がかかりプライバシーが確保できる環境となっている。利用者の呼び方は基本名字となっているが、本人と十分話し合っている。言葉かけは、馴れ合いにならないよう「自分だったら、自分の親だったら」と、考えながら対応に努めている。しかし、地元の職員、利用者が多いこともあり、言葉の内容や語調などについて、気になる時は管理者からその都度注意している。	職員は笑顔を大切にして利用者に寄り添いながらケアを提供していこうと意識して取り組んでいる。今後は職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調などが、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、再度全職員で振り返る機会を持つ事が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最初から職員の決めた事をおしつけるのではなく、本人の希望を聞いたり、自分で決める事の出来る働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその人の状態などに合わせその人のペースで過ごして頂けるよう柔軟に対応していける支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替え、入浴後の着替えなども本人の意向で決めて行くように努め、理美容院などでも好みに合わせたカットやパーマなどをしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物食べたい物などを聞きながら献立をたてたり自分たちで作った野菜を利用したり、食事の準備・食事・片付けを一緒に行うようにし食事時など楽しく、おいしく食事できる雰囲気作りも心がけている。。	料理の下ごしらえや片づけなど、できることを一緒に行っている。献立は職員が立てているが、食事を楽しみにしている利用者の思いを大切に、ホームで採れた野菜や家族、近所からの差し入れなどメニューに取り入れている。茶碗・箸・湯のみは愛用のものを使い、利用者と職員がテーブルを囲んでの食卓は和やかな雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士から、アドバイスを頂き、一人一人に合わせた量やバランスを検討し、その人にあった食事形態など工夫しながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が、口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に一人一人に応じた口腔ケアの介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみながら時間をみて誘導するようにしている。トイレの場所がわからない方がみつけやすいよう表示を大きくしたり、誘導したりしている。	利用者の個別の排泄パターンを把握しているが、その日の排泄メモを活用しながら、体調やリズムに合わせた声かけを行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事でも繊維質の物や乳製品などを取り入れ全体での毎日の体操で体を動かし個々に応じた運動の声かけなどをし、自然排便の出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の曜日などを決めているが、本人からの希望があった場合などは、可能な限り希望に添えるように支援し季節に合わせた変わり湯なども工夫し入浴を拒否される方への言葉かけや対応を職員間で、共有し支援に努めている。	午後に入浴時間を設け、週3回の入浴となっているが、毎日入浴したいという希望やタイミングにも合わせている。また、仲の良い人同士で入りたいという希望にも応じている。季節の変わり湯として、ゆず湯や入浴剤など気持ちよく入浴できる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを整え、一人一人のその日の体調などを考え、室温や照明を調節し、ゆっくりと安心して休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容をすぐ分かるようファイルにし、間違えのないよう朝・昼・夕に袋の色を変え名前を確認し、きちんと服薬できているか確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・片付け・洗い物・掃除・干し物など、その人の得意な所を活かし仕事をお願いし、外出・外食・ボランティア・行事や行事食など楽しみな事を支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り、日光浴や散歩などを心がけ、本人の希望に合わせて買い物・ドライブなどに出かけている。	利用者一人ひとりの希望に沿って、地域のスーパーやコンビニへの買い物、建物周辺の散歩、お茶会による日光浴など、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。年間計画では、少し遠方までのドライブや外食を楽しんでいる他、家族にも協力をしてもらい自宅や親戚宅へ外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人に応じて、お金を所持され、買い物や受診された時など自分で支払うという満足感や安心感を考えながら、支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のかけ方がわからない時は手伝い、手紙を出す代行も頼みやすい雰囲気作りをし、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などには、利用者の馴染みの物や、本、ゆったり過ごせるソファなどを置き、食堂には、いつでもお茶が飲める工夫をし、廊下などには季節の花・絵。写真などを飾り、季節感を取り入れている。	リビングにはゆったりとした寛げるソファや畳コーナーがあり、家庭的な広さで安心感がある。季節感を大切に飾り付けがされ、掃除や温度調整も行き届いている。また、食卓にはその人に合った椅子が用意され、安全性への配慮も十分である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにゆったり過ごせるソファや腰のおろせるカーペットを敷いたり、畳の居間を用意したり、玄関や廊下にイスやベンチを置いたり好きな所で過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、使い慣れた寝具やテレビなどが置かれ、他の家具なども家族・本人と相談し居心地よく過ごされる物を使われている。	居室には、備え付けのタンスとベッドがあり、洗面台は車いすでも楽に使える造りとなっている。愛用の寝巻きや寝具類・炬燵など、使い慣れた好みのものを自由に持ち込んでもらい、自宅と同様の環境の中で落ち着いて過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「出来る事」「わかる事」を職員全員が理解し、状態が変わったときには、話し合いをもち、常に安全で自立した生活が送れる環境を作るよう工夫している。		